



— のど詰まり常習馬の飼料給与 —

新年おめでとうございます。本年も「愛馬のためのカイバ道場」をよろしくお願いいたします。さて、ヒトではお正月と言えばお餅、お餅と言えばのど詰まり、馬はお餅を食べるわけではありませんが、のど詰まり（食道梗塞）の発症はたまに認められます。そこで今回は、のど詰まり常習馬の飼料給与方法について紹介します。

・発症の要因

のど詰まりは、十分に咀嚼せず急いで食べる馬によく発症が認められます。これは飼料のタイプや形状にかかわらず、攻撃的ともいえる採食行動により、十分な咀嚼をせずに唾液の分泌が不十分なまま嚥下しようとするにより。このような採食行動は、多頭数によるグループ飼いの際にも認められます。そうした馬が、1) 水漬が不十分なビートパルプ、2) 大き目に切断された、あるいは丸ごとのリンゴやニンジン、3) 乾燥した繊維質の飼料やペレット、キューブ状の飼料、を摂取したときに発症リスクが高くなることがアメリカの調査結果で指摘されています。また、薬物による鎮静状態で十分な飲水が不可能なときに穀類や乾草を摂取したときにもリスクが高まります。

また、歯牙に異常がある高齢馬は咀嚼が不十分となりやすく飼料を飲み込む能力も減退しているため発症リスクが高いとされています。したがって、歯に問題が多い馬には注意が必要で、15歳以上の馬の95%は適切な咀嚼ができないという報告もあります。若馬であっても、成馬向けの粒度が大きいペレットやキューブあるいは乾燥した茎の多い乾草を急いで食べると、のど詰まりが発症しやすくなります。

・発症経験がある馬には注意が必要

コロラド州立大学の馬病院の調査結果では、のど詰まりを慢性的に発症する馬はそうでない馬に比べ肺炎や気管の炎症の発症リスクが9倍高いとしています。これは、食

道に詰まった食塊や唾液が気管に流入し感染症を起こしやすくなることによるもので、そうした馬には特別な注意が必要であるとしています。まずは個体ごとの採食行動の特性を観察したうえで発症リスクの高い馬を同定し、以下に示す対策を実施することが推奨されます。

・採食速度にブレーキをかけ、攻撃的な採食行動を減じる

飼桶に大きめの滑らかな石を入れる、飼桶の底にカップ型の型打ちを施す（図2）あるいはワッフル型プレートを敷く、乾草は目の細かいヘイネット（開口部長さ3.2cm、図3）により給与する、ネット状の口かごを装着する、などは採食速度を遅らせ、攻撃的な採食行動の頻度を低下させる効果が確認されています。また、集団で飼養されている馬群の採食行動観察から、1日に6回給与した場合は3回給与に比べ攻撃的な採食行動は少なくなることが確認され、放牧地に置く飼桶の間隔を広くすることも同様の効果があるとされています。

・のど詰まり常習馬に適した飼料

のど詰まりを発症し梗塞の原因となっていた物質が除去されても、梗塞部位に炎症があれば通常の飼料給与再開には十分な時間をかける必要があります。先述のコロラド州立大学によると、12時間程度は食道を休ませるべく敷料を敷いていないラバーマットの馬房に入れ水だけを与える、その後2-3日間はペレット飼料やヘイキューブに多めの水を加えスラリー状（ドロドロの状態）にして与えたのち徐々に水分量を減らし、1週間程度かけて通常の飼料にもどす方法が推奨されています。

食道の炎症が治癒しても、その食道壁の組織は以前より収縮し食道を狭窄させる傾向があることから、再発防止を目的として上で述べた飼料給与方法の応用を検討する必要があると考えられます。



図1 のど詰まり発症馬に特徴的な鼻汁漏出



図2 テキサス A&M 大学の研究では、底に複数のカップが型打ちされた飼桶は、採食時間を長くさせるとともに、飼桶の外にこぼす飼料の量を少なくさせると報告している



図3 目の細かいヘイネット（Slow-feed haynets）から乾草を給与することにより、多量に頬張るのを防ぎ、攻撃的な採食行動を減じることができる